# はなやか KANSAI 魅力アップアワード応募シート

## 記載例

記載例①

申請日　２０２１年１０月１日

「はなやかKANSAI魅力アップアワード」事務局 御中

団体名　　○○○の里づくり推進協議会

所在地　　○○県○○郡○○町○○　民宿○○内

代表者役職・氏名　会　長　○○○○

## 第５回はなやかKANSAI魅力アップアワード応募シート

第５回「はなやかKANSAI魅力アップアワード」について、下記のとおり応募します。

### １．基本情報（２０２１年９月１日現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 団体名 | ○○○の里づくり推進協議会 | | |
| 代表者名 | ○○○○　　（役職）会　長 | | |
| 所在地 | ○○県○○郡○○町○○　民宿○○内 | | |
| 設立年月日 | 平成　５　年１０　月　５　日 | スタッフ数 | ８人　（会員数　５０人） |
| 業　種 | ― | HP/URL | http://www.○○○○.co.jp/ |
| 担当者名 | △△△△　　（所属・役職）広報担当 | | |
| 電話番号 | （○○）○○－○○○○ | E-mail | ○○○○@○○○○.co.jp |
| 応募事業での過去の受賞歴 | ○○新聞社主催「グリーンツーリズム大賞２０１０」優秀賞を受賞 | | |

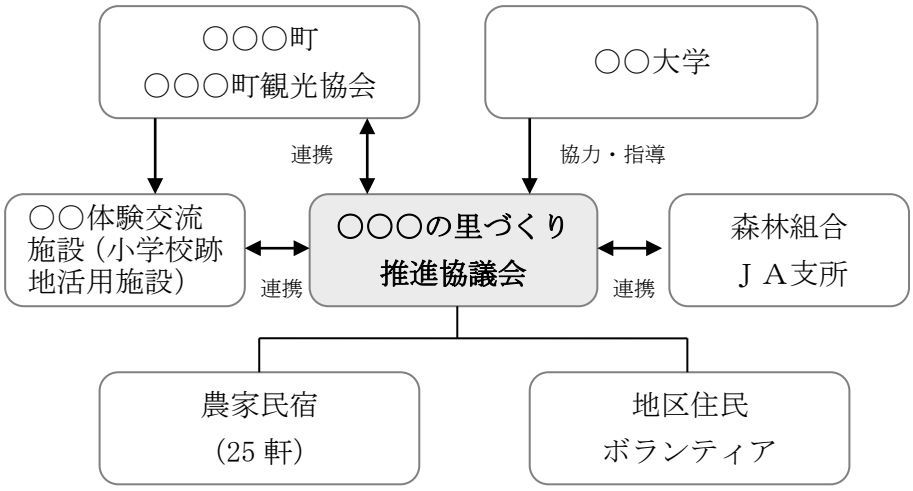
### ２．事業の名称

| | | |
|---|---|---|
| 事業の名称 | 農家民宿を中心とした外国人個人客へのグリーンツーリズム事業 | |
| 事業ジャンル | ☑訪日観光客の取込みに係る事業 | □　在住外国人の居住・生活サポートに資する事業 |

## ３．事業の展開状況

| | |
|---|---|
| ❶目的と背景、取組に至った経緯 | ・〇〇県〇〇町〇〇地区は、かつて林業で栄えていましたが、人口流出が進み、小学校の廃校など、過疎化の問題を抱え、限界集落と言われる地域でした。<br>・その脱却に向け、町では「水と緑と山村の景観」を生かした田舎暮らし体験交流事業を推進してきました。<br>・その一環として、地区内の廃校した小学校の有効活用を地区住民で検討することとなり、〇〇地区では、小学校跡地活用のみならず、地区全体のむらおこしを進めるため、平成５年 10 月に「〇〇〇の里づくり推進協議会」を設立することとなりました。<br>・〇〇大学の協力も得て、地区内のおもてなし資源を発掘し、「懐かしい木造校舎を活用した体験交流施設の整備」とともに、協議会では、棚田の田植え、稲刈り、山菜、キノコ採り、川魚のつかみ取り、炭焼き、木工教室など昔ながらの山村生活を体験するプログラムを提供してきました。<br>・また、以前から取り組んできた地区住民による「芝桜の丘」は、現在では広大な敷地に色とりどりの芝桜が咲き誇り、開花時期には大勢の観光客が訪れる程の名所となっています。<br>・里山の自然の中での山村体験や農家民宿での地元料理の提供を通じ、都会に住む人が癒しを感じるようなむらづくりに取り組む中で、訪れた留学生が SNS で〇〇地区を紹介し、大きな話題になったことが、インバウンド観光への取組のスタートになりました。<br>・協議会では、これまでも協力を頂いている〇〇大学の指導の下、山村暮らし体験プログラムを提供してきた地区住民や農家民宿経営者とともに、外国人受入環境整備についてのワークショップの開催や、簡単な日常会話（英語・日本語）の指さしツールの作成などを実施しました。<br>・また、国の補助事業を活用し、サイクリング施設の整備やハイキングロードの整備、地域の魅力を紹介する多言語マップやサインの整備を進めてきました。<br>・現地旅行エージェント、個人旅行者向け海外旅行社からの引き合いやタイアップにより、外国人客が年々増加しています。 |
| ❷事業の内容<br>※コロナ禍における工夫や取組等があれば併せてご記入ください。 | ・白壁・黒瓦の古民家、囲炉裏のある農家民宿での地元料理でおもてなし<br>・サイクリングとトレッキングでの自然や山村生活を体験できる様々なツアーの企画・実施 |

| | |
|---|---|
| ❷事業の内容<br>※コロナ禍における工夫や取組等があれば併せてご記入ください。 | ・里山の管理と山道整備ボランティアツアーの実施（外国人の参加もある）<br>・インターネット及び外国人旅行者向けサイトを活用したプロモーション<br>・Web 会議システムを活用したオンラインツアーの実施<br><br>〇取組の実施期間（　平成 18 年 5 月～現在） |
| ❸事業の特徴・アピールポイント | ・「限界集落」といわれるほどの地区であったが、地区住民の力を結集し、世界に誇れる日本の原風景の発信と伝統的な山村生活をまるごと体験して頂き、地元食と地域住民の人柄でおもてなし。<br>・空き家等を活用したゲストハウスの整備に当たっては、白壁・黒瓦に統一し、昔ながらの景観を大切にしています。<br>・夕日が映る棚田や花の絨毯のように敷き詰められた芝桜、白壁・黒瓦の古民家が点在する美しい山村の眺望を見渡せる里山への山道、沿道を彩る花木や外国語表記の案内板は、地区住民の手により整備したものです。美しい自然を保全しながら、磨きをかけることで、外国人を含む来訪者を迎えています。<br>・毎年恒例の芝桜の植樹や山道整備には、ボランティアツアーを企画し、第二のふるさととして地区を愛して頂いているファンやリピーターとして来訪してくれる外国人と地区住民が一緒になって、景観整備をしています。汗をかいた後の地元料理は格別との声とともに、地区住民との交流を深めています。<br>・また、来訪者との交流が進化する中で、来訪者の有志の提案により、途絶えていた伝統行事が今年から復活するなど、来訪者参加型のむらおこしが進んできています。 |
| ❹実施・運営体制、関係者等との連携 | ・〇〇地区のむらづくりを推進する任意団体ですが、都市住民や児童・生徒の山村体験や企業等の研修、近年の外国人受入を実施し、スタッフ８名で企画・運営を行っています。スタッフの１名は、外国人受入の契機となった元留学生で、海外への情報発信と外国人向けプログラムの企画やガイド役としても活躍しています。<br>・〇〇地区の祭りなどの伝統行事やイベント時には、〇〇大学の学生をはじめ、多くのボランティアの協力を得て、外国人観光客への案内なども行われています。 |

| | |
|---|---|
| ❹実施・運営体制、関係者等との連携 | **実施・運営体制**<br>  <br> |
| ❺事業の成果や地域等への波及効果 | ・外国人受入環境の整備をスタートした平成 18 年は、欧米の個人客を中心に 120 名が農家民宿を利用して頂きましたが、令和元年には、欧米のみならず各国・地域から 3,120 人の利用と 26 倍になりました。令和 2 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で旅行者数は減少しましたが、これまで付き合いのある海外旅行会社との関係性の維持を行い、またオンライン商談会に出席して新たな国・地域への販路開拓を行っています。海外の方からも多くの方に関心を持っていただき、今後海外との往来が回復したときに備えています。<br>・当地区では、近年の観光によるむらづくりの進展と相まって、Ｕターンし、農家レストラン等を経営するＵターン者も増えてきています。<br>・また、当地区の隣の△△地区でも農家民宿が増加しており、他地区にも波及してきています。<br>・さらに、以前から地区住民による「芝桜の丘」整備に取り組んできましたが、外国人の受入環境の進展とともに、環境や景観の保全活動がより一層活発化し、白壁・黒瓦の古民家改修や沿道や庭先への花木の植樹など美しいむらづくりが進展しています。<br><br>【農家民宿宿泊客数の推移】<br>・平成 18 年　外国人客　120 名　国内客　4,200 人<br>・平成 19 年　外国人客　450 名　国内客　4,150 人<br>・平成 20 年　外国人客　750 名　国内客　4,320 人<br>・平成 21 年　外国人客　820 名　国内客　4,520 人<br>・平成 22 年　外国人客　1,230 名　国内客　4,600 人 |

| | |
|---|---|
| | ・平成 23 年　外国人客　1,650 名　国内客　4,870 人<br>・平成 24 年　外国人客　1,750 名　国内客　4,560 人<br>・平成 25 年　外国人客　1,800 名　国内客　4,800 人<br>・平成 26 年　外国人客　1,950 名　国内客　5.120 人<br>・平成 27 年　外国人客　2,200 名　国内客　5,200 人<br>・平成 28 年　外国人客　2,500 名　国内客　5,500 人<br>・平成 29 年　外国人客　2,850 名　国内客　5,700 人<br>・平成 30 年　外国人客　3,000 名　国内客　6,100 人<br>・令和元年　外国人客　3,120 名　国内客　6,200 人<br>・令和 2 年　外国人客　300 名　国内客　3,100 人<br><br>【利用者からの声】<br>・外国人観光客からは「日本の原風景と伝統的な山村生活、食文化を満喫できたことや何よりも地域住民との交流により、ここに住んでみたいという気持ちにさせられた」との感謝の声を聞きます。<br>・令和 2 年 10 月に実施したオンラインツアーでは外国人にも参加いただき、「コロナが収束した際には是非訪問したい」と感想をいただきました。<br><br>【マスコミからの取材、他地域からの視察や研修等の実績】<br>・●●国●●ＴＶの取材・放映（平成 25 年 5 月 7 日）<br>・観光庁の視察・取材（平成 26 年 5 月 20 日）<br>・「日本で最も美しい村連合」加盟自治体の視察 5 件<br>・●●新聞への掲載（平成 29 年 7 月 30 日付、平成 30 年 3 月 15 日付） |

## ４．取組上の課題と今後の展開及び見込み

| | |
|---|---|
| 取組上の課題、<br>今後の展開及び見込み | ・近年の訪日観光客は、日本の文化や生活に触れることのできる体験型観光へと訪日目的が変化してきており、当地区への来訪は、今後とも増加することが期待されますが、英語でのやりとりが以前にも増して必要になってきています。英語での応対が可能なスタッフが 3 名いますが、人手は慢性的に不足しています。<br>・収益性を高め、外国人への充実したサービスが提供できるようスタッフの充実や人材育成が大きな課題となっています。<br>・また、本町だけではなく近隣市町村や隣接県とも連携し、1 泊だけではなく、2 泊、3 泊と連泊していただけるような商品造成が行われるよう、自治体・地元・関連機関が連携し、実現していくことが必要と考えています。 |

記載例②

申請日　２０２１年１０月１日

「はなやか KANSAI 魅力アップアワード」事務局 御中

団体名　NPO 法人〇〇〇〇インターナショナルフレンドリー

所在地　〇〇県〇〇市〇〇町〇〇

代表者役職・氏名　理事長　〇〇〇〇

## 第５回はなやか KANSAI 魅力アップアワード応募シート

第５回「はなやか KANSAI 魅力アップアワード」について、下記のとおり応募します。

### １．基本情報（２０２１年９月１日現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 団体名 | NPO 法人　〇〇〇〇インターナショナルフレンドリー | | |
| 代表者名 | 〇〇〇〇　　（役職）理事長 | | |
| 所在地 | 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇 | | |
| 設立年月日 | 平成　１２　年　７　月　１０　日 | スタッフ数 | １０人　（会員数　１２０人） |
| 業　種 | ― | HP/URL | http:// 〇〇〇〇.org/ |
| 担当者名 | △△△△　　（所属・役職）広報担当 | | |
| 電話番号 | （〇〇）〇〇－〇〇〇〇 | E-mail | 〇〇〇〇@〇〇〇〇. or.jp |
| 応募事業での過去の受賞歴 | 〇〇主催「〇〇ＮＰＯアワード２０１２」優秀賞を受賞 | | |

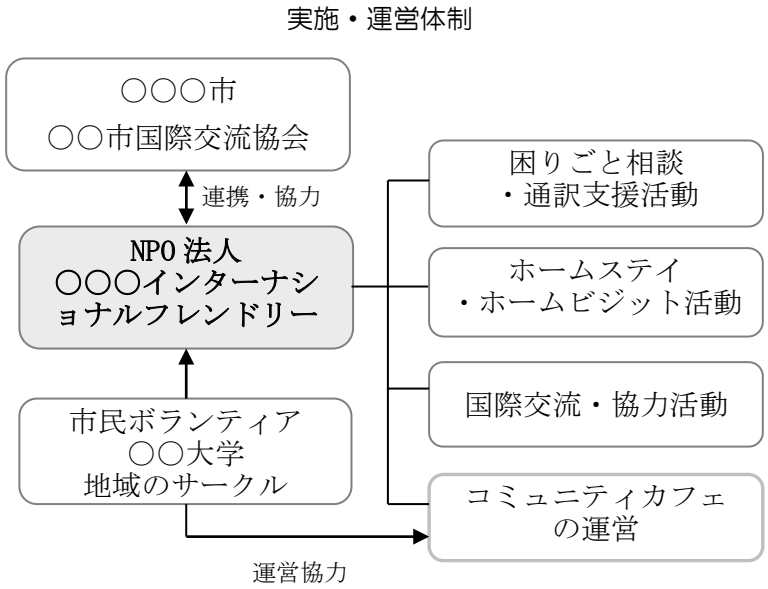
### ２．事業の名称

| | | |
|---|---|---|
| 事業の名称 | 地域と在住外国人との協働による国際交流支援事業 | |
| 事業ジャンル | □　訪日観光客の取込みに係る事業 | ☑ 在住外国人の居住・生活サポートに資する事業 |

## ３．事業の展開状況

| | |
|---|---|
| ❶目的と背景、取組に至った経緯 | ・NPO 法人〇〇〇〇インターナショナルフレンドリーは、平成７年１月に発生した「阪神・淡路大震災」を契機に、外国での生活経験のある世話好きのお母さんを中心に、留学生のホームステイ・ホームビジットの受入や外国人在住者への通訳支援など行ってきたボランティアグループ「〇〇〇絆の会」を前身としています。<br>・活動をスタートしてから５年目、帰国した留学生との海外ネットワークによる国際交流・協力活動などの活動範囲も広がり、若い世代をはじめ会員も増えてきたことから、平成 12 年 7 月には、NPO 法人格を取得し、さらに積極的に活動しています。<br>・「日本の言葉や習慣がよくわからなく、1 日中家に閉じこもりがち」、「気軽にくつろげる居場所が欲しい」といった在住外国人主婦が多いことから、料理が得意な外国人主婦５人が中心となり、「ご自慢料理を学び・楽しむ会」を行っていました。<br>・やさしい日本語でコミュニケーションを重ねながら、月 1 回から週１回と開催頻度を増やして活動を行っていましたが、次第に参加者が増えていき、集まった外国人と日本人が交流できる場として「コミュニティカフェ」を創ろうと考えていました。<br>・そのような折に、地元〇〇〇商店街の空き店舗を無償で貸与頂くこととなり、地域に暮らす外国人女性によるご自慢料理を楽しむ、国際交流スペースとして、平成２２年４月に「コミュニティカフェ」がスタートしました。<br>・「コミュニティカフェ」は、ワンデイシェフ・システムで、現在、15 カ国 35 名が、日替りランチやカフェで各国のご自慢料理を提供しています。<br>・韓国、台湾、ロシア、スペイン、タイ、ベトナムなどメンバーのご自慢料理と合わせて、音楽やサロンなど幅広い文化を体験できるスペースとして、多くの外国人や地域の方々に利用されています。 |
| ❷事業の内容<br>※コロナ禍における工夫や取組等があれば併せてご記入ください。 | ・「コミュニティカフェ」では、主に以下の活動を行っています。<br>・地域に暮らす外国人女性によるご自慢料理の提供（毎日）<br>（世界の日替わりランチを楽しむ（毎日 11:30～13:30）<br>・世界の民族音楽を聴く夕べ（第３金曜日）<br>・サロン・セミナー活動（第１・第４金曜日）<br>「異文化間コミュニケーション」、「国際結婚が上手くいく秘訣」、「日本のマナー」、「ハラスメント」などをテーマとしたサロン・セミナーの開催（週１回）<br>・日常生活の困りごと相談 |

| | |
|---|---|
| | ・SNS を活用した新型コロナウイルス関連情報の多言語での発信<br><br>○取組の実施期間（平成２２年４月～現在） |
| ❸事業の特徴・アピールポイント | ・在住外国人からの相談で多いのが、言語の問題です。役所・学校の手続きや病院への付き添いなどには、１回○○○円で通訳を派遣しており、言語も８カ国語対応が可能です。<br>・「コミュニティカフェ」は、地域に暮らす外国人女性によるご自慢料理を楽しみながら交流するユニークなカフェレストランで、外国人女性と日本人女性が一緒に活動しています。<br>・母国の家庭料理の提供のほか、月１回開催される近隣の大学や地域のサークルによる「民族音楽の夕べ」は、いつも盛会で、多くの地域住民や在住外国人が集い、交流を楽しんでいます。<br>・キッズスペースを併設しており、多様な国籍をもつ子育て中のお母さん、市民ボランティアのお母さんが、子供と一緒に参加でき、子供たち同士も仲良く交流しています。 |
| ❹実施・運営体制、関係者等との連携 | ・当初は、海外経験のあるお母さんの留学生や在住外国人の身近な生活に密着した生活支援ボランティアとして活動してきましたが、メンバーの増加とともに、活動範囲が広がり、「困りごと相談・通訳支援活動」、「ホームステイ・ホームビジット活動」、「国際交流・協力活動」、そして、「コミュニティカフェの運営」を行っています。<br>・それぞれの活動に当たっては、多くの市民ボランティアや○○大学等の参加・協力により、活発で楽しい活動となっています。<br>・また、○○市や○○大学等からの委託事業による国際交流事業や生活相談事業なども行っています。<br>・助成金等に頼らない自立した事業運営で、メンバーの自由な創意工夫を活かしながら、活動を展開しています。 |

| | |
|---|---|
| ❹実施・運営体制、関係者等との連携 |  |

**❺事業の成果や波及効果**

・在住外国人メンバーも含め、メンバーそれぞれの得意とするところや関心事を持ち寄り、学び楽しんだり、悩みや困りごとを支援したり、助け合うことで、日常生活の拠りどころとなっています。
・開店当初は、外国人を含めて地域の方々の利用でしたが、口コミを通じて、沿線に住む留学生や定住外国人の参加が増えています。特に、「世界の民族音楽を聴く夕べ」などの交流イベントは、満席となっています。
・「コミュニティカフェ」の活動は、地元○○○商店街へのイベントへの参画をはじめ、商店街の明るさを取り戻すことに一役買っているようです。
・また、昨年には、好評だったタイのご自慢料理を提供していたグループが、近隣の空き店舗にお店をオープンしました。店舗経営のインキュベータとしても機能しており、商店街の空店舗対策にも貢献しています。

【利用者からの声】
・「日本の言葉や習慣がわからず、家に閉じこもりがちであったが、ここに来ることで日本の生活にも慣れ親しむようになった」、「地域の方々との交流により、日本での生活をエンジョイしている」、「来日間もないころ、子供が熱を出して困っていた時に、病院への案内や通訳を頂き、感謝している」などの声をいただいています。

【「コミュニティカフェ」利用者数】

| | 来店者数 | イベント開催件数 | | 困りごと相談件数 |
|---|---|---|---|---|
| | | サロン・セミナー | 世界の民族音楽を聴く夕べ | |
| 平成 22 年度 | 12,250 人 | 12 | 12 | 42 |
| 平成 23 年度 | 11,800 人 | 12 | 12 | 38 |
| 平成 24 年度 | 12,280 人 | 12 | 12 | 43 |
| 平成 25 年度 | 13,000 人 | 24 | 12 | 40 |
| 平成 26 年度 | 14,800 人 | 24 | 12 | 38 |
| 平成 27 年度 | 16,000 人 | 24 | 12 | 32 |
| 平成 28 年度 | 17,500 人 | 26 | 12 | 40 |
| 平成 29 年度 | 19,200 人 | 26 | 12 | 43 |
| 平成 30 年度 | 21,300 人 | 28 | 12 | 46 |
| 令和元年度 | 22,000 人 | 28 | 12 | 48 |

【マスコミからの取材、他地域からの視察や研修等の実績】
・○○新聞（平成 25 年 3 月 20 日付）
・○○放送の取材・放映 （平成 26 年 7 月 15 日）
・△△新聞（平成 28 年 5 月 10 日付、平成 30 年 2 月 26 日付）

## ４．取組上の課題と今後の展開及び見込み

| | |
|---|---|
| 取組上の課題、<br>今後の展開及び見込み | ・今後、事業を継続・拡充していくためには、人材の育成が急務となっています。そのためにも、現在は整理されていない人材育成マニュアルの作成が必要です。また、新たな雇用を創出するためには、利用者の拡大や企業等との協働が必要であると考えています。<br>・当団体の活動は、国際交流の場として、また、地域に居住する留学生や外国人の日常生活の拠りどころに資していますが、近年では、遠方からの利用も頂いています。<br>・利用者にとっては、居住地に当施設のような空間が存在することが望まれることから、今後、他地域でも活動を展開していければと考えています。 |